

「ただの風邪ではない」

新型コロナに罹患して分かる後遺症の辛さ

新型コロナウイルス感染症は、今年5月に感染症法上は季節性インフルエンザと同じ5類に位置付けられました。しかし、今年8月から9月にかけて感染者が増え、今もインフルエンザと同時に流行しています。

私も8月末に罹患（りかん）しました。5回のワクチン接種後でもあり、重症化リスクがいくつもあるものの、38度後半の熱が3日ほど続いた後、軽快しました。

ただ、軽快後1週間ほどたって倦怠（けんたい）感と頭痛が強くなり、せき・たんは1カ月以上続き「コロナはただの風邪ではない」と思いました。同じころに罹患した30代のめいは、今も嗅覚と味覚障害があると訴えています。

新型コロナ感染後、ウイルスが消失し、ほかに原因がないにもかかわらず、発症時からの症状が続いていたり、新たに別の症状が出たりすることがあります。

症状として多いのは、疲労感や倦怠感、せき・たんに加え、呼吸困難感、集中力の低下や睡眠障害、嗅覚・味覚障害など、さまざまです。これらをまとめて罹患後症状と呼びます。感染後、半年たっても約3割の患者に何らかの罹患後症状があります。

世界保健機関（WHO）は、新型コロナの罹患後症状を「発症から3カ月の間に2カ月以上続く症状で、他の疾患で説明がつかないもの」と定義しています。

50代の中年に多い傾向がありますが、すべての世代で見られます。若年者では脱毛、頭痛、嗅覚・味覚障害が多く、中高年ではせき・たん、関節痛が多いようです。

罹患後症状のリスク因子は女性、新型コロナ感染症が重症の場合、糖尿病など併存症が多い人といわれます。ワクチン接種はリスクを下げる可能性があります。

■倦怠感、味覚・嗅覚障害…

発症時期別にみると、倦怠感、味覚・嗅覚障害、呼吸困難感は新型コロナ感染時から継続することが多く、脱毛や集中力や記憶力の低下はいったん回復後に出ることがあります。

嗅覚・味覚障害は初期から新型コロナ特有の症状として注目を集めました。急性期にはそれぞれ感染者の50%前後に発症します。嗅覚・味覚障害には、それぞれの感覚が低下する場合やまったくなくなってしまう場合に加え、異嗅症や異味症とって、匂いや味がこれまでと異なる変な匂いや味になることがあります。

嗅覚・味覚障害の特徴は、鼻水や鼻閉など鼻かぜ症状がなくても発症し、急性期には高度に障害されるものの、短期間で改善する人が多いことです。ただ、1年以上持続する人も数%いるそうです。

変異株により嗅覚・味覚障害の頻度が異なり、昨年はやったオミクロン株BA・1は初期の株に比べて発症頻度は低く、現在流行しているBA・5系統では再度高くなっています。

倦怠感や不安は時間の経過とともに改善していくことが多いのですが、注意すべきは回復後しばらくして頭が「ボーッ」として、記憶力や集中力が落ちる人もいることです。「脳の中に霧がかかったよう (b r a i n f o g)」な状態になり、認知障害を起こすこともあります。MRI検査をすると、脳が萎縮していたり、認知症が進んでいたりすることもあります。

残念ながら罹患後症状に確立した治療法はなく、原因も分かっていません。幸い多くの人は時間の経過とともにほとんどの症状が軽快または消失します。